

社会資本総合整備計画 事後評価書

令和06年03月18日

計画の名称	下寺尾・堤地区の歴史的街なみ環境の向上												
計画の期間	平成29年度 ~ 令和03年度 (5年間)										重点配分対象の該当		
交付対象	茅ヶ崎市												
計画の目標	歴史文化資源の維持・保全及び環境整備を契機に、歴史文化を基軸とした地域づくりを進め、住民のまちづくり活動の活性化を図る。												
全体事業費(百万円)	合計(A+B+C+D)	850	A	800	B	0	C	50	D	0	効果促進事業費の割合C/(A+B+C+D)	5.88	%

番号	計画的成果目標(定量的指標)	定量的指標の現況値及び目標値		
		定量的指標の定義及び算定式		
		当初現況値 (H29当初)	中間目標値	最終目標値 (H33末)
1	歴史文化交流館一帯を地区住民の交流空間として整備し、イベント等を開催するエリアマネジメントを行い、まちづくり活動を促進させる。 歴史文化交流館の運営や旧和田家等一帯を活用したイベント等の企画立案を行う市民、有識者、地元企業からなる運営協議会を設置する。 協議会の設置数	0団体	団体	1団体
2	景観重要建造物やちがさき景観資源の指定を契機に計画区域の文化的価値を高め、地区の活動に触れ、まちづくり活動へ参加する機会を創出する。 歴史文化交流館や旧和田家等を活用したイベントやまち歩きイベントを増加させる。 交流館関連イベントの開催数	6回	回	16回
3	景観重要建造物やちがさき景観資源の指定を契機に計画区域の文化的価値を高め、地区の活動に触れ、まちづくり活動へ参加する機会を創出する。 景観重要建造物及びちがさき景観資源を指定する。 平成33年末までに、旧和田家及び三橋家2件を景観重要建造物、歴史文化交流館一帯(1か所)をちがさき景観資源に指定	0件	件	3件

備考等	個別施設計画を含む	-	国土強靱化を含む	-	定住自立圏を含む	-	連携中枢都市圏を含む	-	流域水循環計画を含む	-	地域再生計画を含む	-	避難確保計画の策定	避難行動要支援者名簿の提供
-----	-----------	---	----------	---	----------	---	------------	---	------------	---	-----------	---	-----------	---------------

A 基幹事業																								
基幹事業(大)	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間(年度)					全体事業費 (百万円)	費用 便益比	個別施設計画 策定状況					
												H29	H30	H31	R02	R03								
									一体的に実施することにより期待される効果															
									備考															
住環境整備事業	A16-001	住宅	一般	茅ヶ崎市	直接	茅ヶ崎市	-	-	下寺尾・堤地区街なみ環境整備事業	生活環境施設の整備、景観重要建造物の改修、駒寄川環境整備、歴史文化交流館前広場整備、地域交流広場整備、公共サインの整備	茅ヶ崎市						800	1.14	策定済					
												小計						800						
											合計						800							

C 効果促進事業

基幹事業（大）	番号	事業 種別	地域 種別	交付 対象	直接 間接	事業者	種別1	種別2	要素となる事業名 （事業箇所）	事業内容 （延長・面積等）	市区町村名/ 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 （百万円）	費用 便益比	個別施設計画 策定状況		
												H29	H30	H31	R02	R03					
		一体的に実施することにより期待される効果																			
		備考																			
住環境整備事業	C16-001	住宅	一般	茅ヶ崎市	直接	茅ヶ崎市	-	-	下寺尾・堤地区まち起こし事業	イベントの企画・試行実施、ガイドブックの作成等	茅ヶ崎市						50	-			
		整備完了後は、運営協議会が主体となりエリアマネジメントを行っていくが、立上げ期に景観重要建造物等を活用した取組を実施し、軌道に乗せることで当該地区のまち活性化を行うことができる。																			
												小計						50			
											合計						50				

事後評価

事後評価の実施体制、実施時期	
事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
博物館及び景観みどり課で、数値目標の達成状況や事業効果の発現状況を検証し、その結果に至った要因を分析した。結果を踏まえ今後のまちづくりの方針を検討するとともに、客観的な視点を取り入れるため「茅ヶ崎市景観まちづくり審議会」に、事後評価（案）の内容に対して意見を求め本評価に反映させた。	令和5年度（事業の繰り越しを行ったため）
	公表の方法
	市のHPにて公表
事業効果の発現状況	
定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館や旧和田家住宅などの下寺尾・堤地区にある歴史的資源を活用したイベントを開催し、計画区域内の歴史や文化に触れる機会を創出した。 ・旧和田家住宅・旧三橋家住宅を景観重要建造物に、博物館一帯をちがさき景観資源に指定し、景観上の価値向上に努めるとともに、歴史・文化的な価値を高めた。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館開館後、基本展示以外に教育・普及活動としてワークショップや学校見学等を通して、地域の歴史・文化を伝える活動を行った。令和4年度の来場者数は3万2432人来場し、多くの人に茅ヶ崎の歴史・文化の伝承を行うことができた。 ・旧和田家住宅は耐震性に不足があったため令和元年度～3年度にかけて耐震改修を行い、改修後には旧和田家を親しんでもらえるようなイベントを開催した。歴史遺産を身近に感じ、体感できる取り組みを行うことができ、令和4年度の来場者数は6600人で改修前より約2800人増えた。 ・まち起こし事業では、小学生を対象に官民が連携し自分たちの住む地域をモチーフとしたマークづくりや、旧和田家住宅の耐震改修の様子を見学・体験し、ポスター制作をおこなった。地域の資源を学び、記憶に残すことで、資源への愛着を定着させ未来へ継承するための活動実例を作りだすことができた。 ・公共サインの設置後の活用に関する調査の結果、サインを見ながら博物館やその周辺の寺社に向かう人を確認できた。公共サインの設置によって下寺尾・堤地区の歴史的資源への散策を促す役割を担っていることが確認できた。
特記事項（今後の方針等）	
博物館建設をはじめ、歴史・文化資源の維持・保全及び環境整備を契機に、歴史・文化を基軸とした地域づくりを進め、住民のまちづくり活動の活性化を図ることができた。今後の方針としては、計画対象範囲が近接し計画期間が平成29年～令和18年迄の下寺尾官衙遺跡群保存活用計画に基づく各施策や地域公共交通計画と連携し、本計画における実例を基に、歴史・文化資源の活用と継承を目指し、下寺尾・堤地区の更なるまちづくり活動の活性化を図る。	

目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値 / 実績値	目標値と実績値に差が出た要因	
1	協議会の設置数		
	最終目標値	1団体	令和4年7月30日に協議会を設置して以降、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに館長に対して意見を述べる機関として機能しており、目標値は達成できた。
	最終実績値	1団体	
博物館関連イベントの開催数			
2	最終目標値	16回	周辺の歴史・文化の史跡等について関連するイベントを6回、効果促進事業として街おこし事業を10回開催し、イベントを増加させ、地域の資源を活用し体感・体験できる機会を創出することができたため、目標値は達成できた。
	最終実績値	16回	
	令和4年末までに、旧和田家及び三橋家2件を景観重要建造物、歴史文化交流館一帯（1か所）をちがさき景観資源に指定		
3	最終目標値	3件	平成29年4月7日には旧和田家住宅、旧三橋家住宅を景観重要建造物に指定、令和5年2月17日に博物館周辺の景観をちがさき景観資源に指定し、地区一帯の文化的価値を高めることができたため、目標値は達成できた。
	最終実績値	3件	